

(仮称) 総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たたき台)
 に対するパブリックコメントおよび各団体からの意見【最終】

(パブリックコメント) 3人

(各団体からの意見) 37団体

		対象とした 団体の数	懇談または意見照会が終了した団体の数				懇談が終了 していない 団体の数
			左記の内訳				
			回答あり		回答なし		
			意見あり	意見なし			
意見聴取団体	博物館関係	4	4	4			
	学校関係	9	9	7		2	
	文化関係	5	5	5			
	福祉関係	11	11	7	1	3	
	経済関係	9	9	4	1	4	
	観光関係	12	12	5		7	
	まちづくり関係	5	5	4	1		
	資料等寄贈者	3	3	1	1	1	
	計	58	58	37	4	17	

(目次)

(総論)	1～7
(各論) 1 機能に関すること	8～11
(各論) 2 建物に関すること	12
(各論) 3 駐車場に関すること	13
(各論) 4 設備に関すること	14～15
(各論) 5 利便施設に関すること	16～17
(各論) 6 資料に関すること	18～20
(各論) 7 資料の展示・運営方法に関すること	21～23
(各論) 8 運営体制に関すること	24～25
(各論) 9 利用促進策に関すること	26～27
(各論) 10 建設場所・アクセスに関すること	28～29
(各論) 11 財政負担に関すること	30
(各論) 12 博物館本館の活用方法に関すること	31
(各論) 13 郷土資料館の活用方法に関すること	32～33
(各論) 14 北洋資料館の活用方法に関すること	34～35
(各論) 15 北方民族資料館の活用方法に関すること	36～37
(各論) 16 文学館の活用方法に関すること	38
(各論) 17 「たたき台」の表現に関すること	39～40
(各論) 18 その他	41～43

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合ミュージアムのような施設を否定するつもりは毛頭ないが、北洋資料館については、統合の対象から外すべきで、ドック跡地の研究センター、シーポートプラザ跡地、緑の島のいずれかに移設し、「函館市海洋博物館」もしくは「海事船舶博物館」にした方が良いと思う。函館市が「国際水産海洋都市」とまちづくりのグランドラインとして定めているならば、海・船・港に特化した博物館は必要な施設であり、総合ミュージアムでは力量不足である。その代わり、総合ミュージアムと他の施設との共通入場券を発行する事で相乗効果や地域への波及効果、人の流れを生み出せば良い。 ○ 未来にむけて、悔いのない博物館を市民、行政の英知を結集して、活発な意見を集約し、早や目を実現される事を望みます。 ○ 過去に水族館建設の気運もあったし、動物園の構想もあったが、現在立ち消えの状態です。総合ミュージアム構想も悔いのない方向性で市民の声を反映されます様に。 ○ 個人的にロンドン、パリ、ニューヨーク出張の節はいずれも大博物館見学した事が忘れられません。でもいずれも大規模です。中規模でも中都市にマッチした小規模OK、観光誘致の決め手になります。
博物館関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中央図書館にある図書の歴史的なものは、もうすでに図書というよりは資料になっている。例えば、明治20年とか明治後半ぐらいの日本の出版文化がすごくよくわかり、色々な古い雑誌や函館新聞など。図書館法と博物館法は、かなり違っていて、見せるとか貸すことを前提にしているので、資料の保存という観点の法律ではないので、そこに移行して扱ってもらえると函館の外国、函館の地域の特徴を表すような明治の文化というものの背景的なものが非常によく見えるような部屋が一つできるような気がするので、ぜひご検討してもらえればありがたい。 ○ 新しい博物館は、函館らしく文化発祥をテーマにしてもらいたい。 ○ 皆が気楽に楽しめるような面白いものを望む。 ○ もう何年も前から、博物館を新しくしないのかってやっていて、やっと動いてきたのかと思うが、新しい時代が来て、考えてもいないようなことがいっぱい盛り込まれた新しいミュージアムになるのが楽しみだが、私は音楽が専門で函館でも立派な作曲家とか、そういう活躍してる方の楽譜とかが図書館の方に寄贈したという話は聞いたことだったので、今度は博物館の方に寄贈することもあるかなと思うと、それを見学できるようになれば、楽しみだと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館とか図書館とか、いわゆる知的財産に関わることは、予算とかお金のことが出てくるところがいつも残念だと思う。教育や世界遺産というものは、そういうものではないかと考える。ただ、先日、北海道新聞の記事を読んだときに、ちょっとワクワクした。総合ミュージアムという、そのネーミングがちょっと新しくなるかなということがあります。博物館にしても図書館にしても、市民が楽しめるということが大事なんだと思う。それがきつとARやVRのデジタルを含めて、新旧取り混ぜて、これまでの歴史を保存するという良さが発生するような。お金はとつてもかかるとは思いますが、頑張ってもらいたいと思う。 ○ 先日お花見で、実はこの前を通ったけれども、うちの娘、ちょっと暗いところが苦手で、「これ何の建物」って聞いてきて、「博物館だよ」入って聞いたら「怖い」って、残念ながら入ることができなかった。新しくなるということで、娘の興味があるうちにできてくれたら嬉しいなと思う。図書館も昔こちらにあったけれども、やっぱりちょっと重たいというか重厚な雰囲気があったので、今の図書館が出来てからは、子どもたちが大喜びしてついて来る。誰でも喜んで、子ども達も入れるような雰囲気にしてもらえたらとても嬉しいと思つて、とつても楽しみにしています。 ○ ネーミングが新しかったり、お子様が行きやすいというか、行こうって子どもの方から楽しそう、明るいわって足を運びたくなるようなミュージアムになればいいなと思う。家族で楽しめると言ったら、今一番イメージできるのが実は蔦屋書店の建物です。知人から話聞いたりしても、寒い時期が長い函館で、それであの室内で家族で行って、何時間でも、みんなで楽しく過ごせるような、あんな施設になればいいなと思う。
<p>学校関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンセプトに「④すべての市民が楽しめる」点が含まれていることに全面的に賛成である。 ○ 総合ミュージアムが永続的に函館市の活力向上に欠かせないものとするためには、総合ミュージアムと学校・社会教育施設などの連携が重要になってくると思います。そのため、たとえばフレキシブルな利用が可能な展示室を設けるなど、現在まちづくりセンターや中央図書館で行っている「場の共有」の要素を総合ミュージアムでも盛り込んでもらえると、教育活動の成果・課外活動の成果など、地域との関わりが感じられる場が増えて個人的には嬉しいです。完成を心待ちにしています。 ○ 現在の各施設の集客状況や次世代への引継ぎを考慮すれば、このまま5つの施設を個々に運営していくよりも、それぞれの博物館の魅力をつめこんだ総合施設を建設することに賛成です。 ○ 博物館とは別の施設とはなるが、函館美術館について、近年魅力的な作品の展示が毎年行われており、大変充実した展示会となっている。施設の老朽化と常設展の活性化の必要性を感じる。思い切って函館美術館も組みこむ形で変革を起こせないかと考える。熱帯植物園も施設のスリム化や他施設との統合を計りながら、ビオトープに形を変えるなどの取り組みを始めてみるのも良いのではないかと考える。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館や博物館相当施設を一本化する事は文化的空間の共有，一カ所で多くの情報を得られるという点で非常に良いと思う。亀田交流プラザのように多くの人が集える空間になればイベント等にも参加しやすくなるのではないかと思う。 ○ 現状でもぐるぐると市電やバスを乗り継いで歩き回りながら博物館を歩き回るのが楽しいという学生の意見もある。総合博物館の建設がうまくいかない場合，シャトルバスで各博物館を回れるようにすると高齢者や観光客にとってはより楽しい時間を過ごせるかと思う。 ○ 施設が分散していることが大きな課題。 ○ 現存する施設の有効活用。 ○ 今ある5館の機能が課題あれども，良い点を総合ミュージアムに引き継がれるといい。 ○ 避けたいパターンは，多額の資金をつぎ込んで新しい施設を建築し，オープン時は注目を集めてにぎわうが，数年たつうちに訪れる人が激減し，閑散としていく。函館（道南圏）の人口は激減しており，この流れは止められないと思う。当然市の収入も減少は避けられないので，上記の最悪パターンを避ける意味では，無理に新施設を建築せず，現状をどう生かしていくかという視点も重要かもしれない。 ○ 掲げられているコンセプトは，多角的な面からこのプロジェクトの目指すところを示し，従来の「博物」を越えた魅力ある場所作りの指針になっていると考える。 ○ 多くの人々の心に残る総合ミュージアムの完成を一市民として心待ちにしています。 ○ 総合ミュージアム大いに賛成です。 ○ 函館は本当に歴史も古く，西部地区など街全体が博物館のように歴史的建造物が並んでいます，なかなかそれを体系的に学ぶ事ができないという課題もあるかと思う。 ○ 縄文文化から現代にいたるまでも，本当に貴重な史料がたくさんあるのですが，その貴重な史料に触れる機会が少なく，函館市にあるけどあまり市民が知らないという事もたくさんあると思います。自分の職場の歴史を調べながら，嗚呼そんな事があったのか！？とびっくりする事もたくさんある。函館に住んでいる人たちが「へえ～」とか「そうなんだ！」という学びと気づきのある博物館になって欲しいと思います。 ○ このようなミュージアムの早期完成に期待する。 ○ 体験型学習，函館の魅力（食，景色，異国情緒）を生かす。 ○ 「配慮しなければならない事項」や「コンセプト」はよいと思う。 ○ 函館市の素敵な企画だと思う。市民がこの先何十年もずっと誇れる施設となるよう応援します。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を1か所に集約することは納得できる。 ○ 道内の和人の歴史，幕末，箱館戦争に照準を合わせた歴史博物館にする。 ○ 建物を建てるのではなく，現状+αを優先し，充実させることを考えたほうが負担を残さない。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゴールデンカムイで北方民族資料館に注目がということはあるが、多分それより前は市民はほとんど行かないところであるが、一方で、観光で民族に興味を持っている海外からの方は注目をするということがある。単純に市民の意見を聞いているだけだと視点が偏ってしまうので、広く観光客といっても、市内で観光を受け入れる業者が考えるものと実際に訪れる人との隔たりがあるかもしれないので、そういう点は十分理解して設計していかなければ、例えば、子どもが来やすいからということでそちらに偏ってしまうと、一方で、欧米から民族に対する興味を持っている人たちがむしろ入りにくくなってしまふなど、そういうことがあるかもしれないので、注意深く計画を立てていかれることを期待する。 ○ （仮称）総合ミュージアム整備については、多種・多様な意見があり、これらを一括りに纏めることは当会として難しいものがある。函館にとって現在の各施設が持つ歴史的意味を十分に考慮し、今後の進め方については、新施設が郷土の歴史と文化の伝承に繋がるものになるよう十分な議論を重ねられることを要望する。
<p style="text-align: center;">福祉関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な考え方には賛成だが、総合ミュージアムも既存施設の活用にも十分な駐車場確保が前提となる。 ○ 函館はいつも、もう一度訪れたい観光地になっているが、住みたいというランキングでは下位なので、地元の人にも喜ばれる街にするための施設にしてほしい。 ○ 博物館・郷土資料館・北洋資料館・北方民族資料館・文学館などは、一般の人が何回も足を運ぶ施設とは、なかなか思えない。 ○ 子ども達が函館に愛着や興味をもち、函館に詳しくなれる施設になるといいと思います。 ○ 歴史や文化を1つの施設で学ぶことができるのは、いいと思いますが、資料の展示だけでなく、歴史や文化に触れ、体験しながら楽しく学ぶことのできる施設になってくれると、子ども達と行きやすいのかなと思います。 ○ 子ども達が歴史や文化に興味・関心を持てる環境づくりが必要と考えます。 ○ 歴史や文化を学び後世に残していくためには、子ども達に関心を持ってもらうための教育が必要だと思う。 ○ 子ども向けの函館学などで興味を引き、そこからミュージアムへ足を運んでもらえるような構図があればいいのではないのでしょうか。 ○ 同じものばかりでは、何度も足を運んでももらえないと思う。 ○ 同じものであれば、目玉になるものが必要だと思う。
<p style="text-align: center;">経済関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的に学べるミュージアムにすることは、施設の問題はまとまることでクリアできる。 ○ 基本的な考え方に沿っての整備でよい。 ○ 総合ミュージアム建設には賛成。
<p style="text-align: center;">観光関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 函館は歴史のあるまちであり、その歴史の足跡が現在の函館の貴重な財産であり、観光資源になっていますので、それらを十分に生かしたミュージアムにしてもらいたい。 ○ 北方民族資料館・文学館は、現在のボリュームで新たな施設に集約するのは難しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な考え方はいいが、観光客の視点から、テーマごとに特化した施設を西部地区に点在させておくことも、観光の面的な広がりを維持するうえでは必要。 ○ 楽しく、面白く、興味を持てるミュージアムにしてほしい。
まちづくり関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の日本の目指す、多様性や民族共生、人権などを尊重するミュージアムにしてほしい。 ○ 地域の特色のひとつであるアイヌ民族の歴史や文化の発信は重要。特に、函館にある道内有数のアイヌ資料を柱の一つにするミュージアムを要望。 ○ 本会の理念とミュージアム <ul style="list-style-type: none"> 本会の趣意書には、「函館は、日本の文化や歴史を語る場合忘れてはならない歴史的遺産、他地域には例を見ないほどの豊かさを誇っている。（中略）函館に住む人の誇りは、正にこの歴史的風土と共に生まれたものと言えましょう。」とあります。この考え方をミュージアムの理念に生かしてほしいです。また、運動の方向性として①対象地域の拡がり、②生活環境の問題として考える、③昔のよさを大切に、それをどう生かすか、④住民の合意による保全が示唆されています。この捉え方もこれからのミュージアムに大切な要点だと考えます。 ○ 「学び・知らせ・守る」とミュージアム <ul style="list-style-type: none"> 本会のスローガンには研究・共有・保存という意識からの出発が理解できます。本質的な意味は、歴史的風土を守るのは「私たち」という主体性にあったのです。ミュージアムにとっても誰が担い手になるのかが課題です。市民に開かれたミュージアムが第一義として意識され、市民が担い手に育成する姿勢が大切です。具体的には、子ども達や市民への単発ではない講座が開かれ、市民学芸員的な人や市民ボランティアを育てる場になることや、学んだ人が、次は主体となって活動する土壌づくりの場になることが求められています。 ○ 市民運動とミュージアム <ul style="list-style-type: none"> 函館のまちの特徴として、まちの歴史的環境に関わる豊富な市民活動（歴風会・街なかプロジェクト・外国人居留地研究会など）があり、そうした市民活動体と連係したミュージアムができれば、それは新たな魅力になり、ミュージアムの可能性を上げることが期待できます。ミュージアムの事業のひとつは、地域住民や市民運動体とのパートナーシップによる地域づくりでもあるのです。 ○ 市史編さん事業とミュージアム <ul style="list-style-type: none"> 臨時事務局であった市史編さん室が持っていた機能が現在でも必要であり、ミュージアムにとっても大きな特徴（魅力）になります。合併後の市自体の領域に変化がありました。それぞれの地域には、自治体史がありますのでこれからの編さん事業は、三湊（函館・松前・江差）を中心とした「道南史」を視野に入れた研究を主導すべきと考えます。また、郷土に愛着を持つことを念じて子どもたちに向けての絵本作りにも力を注ぐことに期待します。

○ 集約型総合ミュージアム構想への再考

現在の各館が分散しているから、それらを集約したものとして総合ミュージアムをつくり、各館をカラにしようとする考え方からスタートしていますが、総合ミュージアムのコアとして、各館をテーマ館（サテライト）と位置づける考え方が必要です。それぞれの館の特色をさらに生かし、函館はあちこち点在する館を楽しみながら巡る形で残した方がエコ・ミュージアム的で観光客にも喜ばれることが期待されます。北洋資料館、郷土資料館、北方民族資料館、文学館に加えて開港資料館、縄文文化交流センター、それぞれのテーマは総合ミュージアムの内容によって再編される必要があるとともに各講座の再構築も必要と考えます。

○ 地域博物館としての基本的な考え方の希薄さ

（たたき台）には、博物館の理念が説明されていますが函館博物館の歴史的経緯やこれまでの函館博物館が抱えてきた課題に触れられていないことが残念です。初期の函館博物館は北海道開拓の歴史と関連した重要な位置づけにありました。地域博物館でありながら他と比較にならない膨大な質と量の資料に対する学芸員の適切な配置がなされていない実態の解消が求められます。今後の博物館の研究領域や空間的な広がりなどは、有識者や道南の学芸員による「博物館構想会議」などによる検討が望まれます。

○ 「箱モノ行政」から脱却していない感じ

以前に「箱モノ」行政と揶揄された時期がありました。あるいは行政からの提案型とも言われました。函館市民の多くはこのことに疑問を感じずに「市民協働」を棚上げした状況でした。この（たたき台）にしても「教育委員会といたしましては、・・・」や「たたき台に対する市民や関係団体の意見を聴取したうえで成案化します。」との言葉は間違っていないのですが、市民協働がどのレベルで具体化するのかが不透明です。生涯学習社会の時代のミュージアムの実像は、「市立函館博物館」から「函館市民ミュージアム」に変容することが期待されています。

○ 博物館には様々な機能や役割が必要です。地域の歴史や自然、文化などを学ぶための場。まちづくりのための市民活動を支援する場。地域資源を活用して産業を育て観光を振興する場。今後は地域づくり事業が重要と考えます。

○ 道南の博物館のセンター的機能を持つ、中核的な施設をめざすべきです。

○ かつて北海道の歴史的に重要な資料を取り扱っていたのは、函館の図書館と北海道開拓記念館のみであった。図書館に係る歴史的な経緯についても説明できるものを作って欲しい。

○ 市民議論が進むように、建設場所や予算は早めに示した方が良い。

○ 市民間の議論でしっかりした理念を構築していくためには、予算に制限があることはあまり早く出さない方が良い。

○ 市民学習会などを企画し、市民の意識や知識を向上させていくことが必要と考える。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館構想を進めるにあたり、今後留意すべき3つの点があるとする。 ・ かつて何十年も前、博物館ブームがあり研究者が地方都市へ散逸したことで、都市部の博物館のポテンシャルが下がったと感じた。しかし、市史編さんなどの事業では、多くの研究者が集まり、事業に対するポテンシャルが高まったと感じた。博物館構想を構築するのであれば、研究者を集約させた組織作りが必要であろうと考える。研究者の不足等が内発的理由によることは市民理解を得られない。 ○ 開港五都市の事業も関わっているが、函館市の観光事業と市民生活との乖離があまりにも大きい。今後の博物館構想では、函館市独自の観光資源という考え方を取り入れて進めていくことが重要と考える。 ○ 博物館構想には行政と市民との連携が重要であると感じている。 ○ 総合ミュージアムの検討は進めるべき。
資料等 寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	<p>○ 6階～7階の建築を望む。</p> <p>1階 先史・古代史・縄文時代 火山島・海底火山・柱状節理・大船遺跡・垣ノ島遺跡・盛り土遺構・縄文人と生活・生活用具</p> <p>2階 古代史・続縄文時代 エミシからエゾへ・アイヌ人と生活・生活用具・大陸との交易</p> <p>3階 中世史・鎌倉時代・室町時代 蝦夷地とアイヌ文化・道南12館と志苔館・箱館・古銭</p> <p>4階 近代史・江戸時代 松前藩の成立と「新羅の記録」・コシャマインの乱</p> <p>5階 近代史・江戸時代 北方開拓・北前船交易とニシン漁業の遺産・北前船の寄港地・五稜郭築城・戊辰戦争</p> <p>6階 現代史・明治時代・大正時代 ニシン漁の盛衰・青函連絡船の歴史・土木産業遺産</p> <p>7階 現代史・昭和時代以降 北洋漁業の盛衰・太平洋戦争と戦跡・青函トンネル開通・ミニ水族館・名所旧跡・水産業の施設と名物商品・温泉と地質の紹介</p> <p>○ 函館の歴史・文化の学習の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真やバーチャルリアリティの機器等を使い存分に活用して学習できる場。 ・ 函館市の産業・文化・学術の発展に貢献した人物を紹介する場。 ・ 小中学生や市民が函館の先史・古代史から現代史まで学習のできる場。 ・ 市民や観光客に函館の歴史や地域文化遺産、土木遺産、産業遺産を紹介する場。 ・ 観光客が実際に現地に足を運び見たいと思えるような展示の工夫 ・ 滞在型の観光地として発展させたい。 ・ 函館市は水産都市として発展してきたが、水族館がありませんので、津軽海峡周辺の花巻や魚貝類などの展示の工夫も欲しい。
博物館関係	<p>○ 函館市の市史編さんの事業が終わってやや経過したが、よその自治体でも文書館的なものを残したいというのは実際よく出てくる話で、函館でもその話は一部にあったが、結局は形では残せていないので、総合ミュージアムの中に資料の保存も可能なように考慮してもらえればと思う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル技術の活用というところも楽しみで、子供たちも大人もそういうのを楽しみに来る方がたくさん増えるのではないかと思います。 ○ 函館の歴史文化のほか、自然環境も含め総合的に学べるミュージアムに。 ○ 研究機能の充実（紀要など）
<p style="text-align: center;">学校関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見学する場（一方向）の機能に加え、参加・交流・発信する場（双方向）としての機能を付加する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の博物館は、学芸員の説明を聞き、静粛に見学する場所であるというイメージがあるが、図書館、博物館の「静粛」は必要ですが、そうでないスペースを作ってはどうか。 ・ 市内外の生徒・学生がグループで自由に話し、課題に取り組める場、学んだことをもとに話し合う、調べる、意見を発信することを目指します。 ・ 自由に会話ができ、ネット環境を整備し、相談したいときに話が聞ける学芸員、ボランティアサポーターがいるような開かれたセミナールームを設置します。 ・ そこでのサポーターとして、多様な背景を持つ市民に協力を仰ぎます。様々な人の登録で、異なる世代間の交流や高齢者の生きがいにもつながる可能性があります。また、函館在住の外国籍の人に参加してもらい、国際交流・異文化理解の場にもできます。 ・ サポーターは有償ボランティアのイメージを想定しています。担当する人に責任を持ってもらう、受け身にならずに参加してもらう点でプラスに働くと考えられます。 ・ このサポーターは市が独自に個人を募集する方法に加え、函館市内の団体（趣味の活動、国際交流、町内会など）に声掛けする方法が有効かもしれません。この方法は実際に稼働した後の運営・調整にもマンパワーの点で利点があると考えられます。 ○ 観光や街歩きの起点や終着点、立ち寄り所、障がい者の参加と交流の場となる機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立地選択で観光の拠点となる場所（函館駅や五稜郭、元町周辺など）を検討し、観光案内所の機能を併設します。歴史的建造物のある地域も候補にできます。 ・ 札幌にある北海道大学の博物館のように、内部の機能を充実させることで、来訪者が増えることが考えられます。そこでしか手に入らない物品が買えるミュージアムショップ併設、購買目的の訪問がミュージアムの見学に繋がることもあります。 ・ 飲食の場を設け、食事、休憩、カフェ利用を可能にします。喫茶の営業やお弁当、パンや洋菓子など食品の販売を福祉作業所に任せることも考えられます。障がい者の参加は、来客者にもプラスになります。 ○ 優秀な生徒・学生の「寮」（とできれば図書館）を併設する。 ○ 公立小中学校で体系的または組織的に函館市や北海道の歴史・郷土史を学ぶ機会にとぼしいように思われ、それらに寄与する施設の建設を期待する。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 琵琶湖博物館のように自然博物館と歴史博物館の組み合わせられた施設にできれば、動物園や水族館のない函館で自然史に興味をもつ子供たちのためにもなるのではないかと体験型や参加型の博物館だと多くの集客が見込めるとし、生涯を通して学習できる空間になると思います。 ○ 体験型のコンテンツ（制作活動等）や合理的配慮ができる説明員の活用ができるとアカデミックな内容についても、より子どもたちが理解できることにつながる。 ○ 日常を離れて、楽しめる空間を意識してほしい。 ○ 子どもが楽しめる空間。 ○ 「食」「体験」「乗り物」「3D」など多様な世代が楽しめる。 ○ 体験施設の充実。 ○ 小中学生が多角的・体験的・探求的に学べる場の提供。 ○ 総合的な学習の時間や修学旅行等で体験できる学びの場にしてほしい。 ○ 中規模でも「水族館」の併設を。 ○ 函館だからこそ、小中規模でも海洋の生き物が見られるのが理想。 ○ 函館のこれまでの歴史や育まれてきた文化を把握・体験でき、その歴史や文化がこれからの社会にも影響し、価値のあるものとして生かされ、さらに新しい文化の創造へとつなげられるような施設にしてもらいたい。 ○ 函館の歴史遺産の価値や魅力を内外に強いメッセージを込めて伝える「歴史をつなぐ、人をつなぐ、現在（いま）と未来をつなぐ」ミュージアム ○ 誰もが函館の歴史がよくわかり、学ぶことができる、見て、聴いて、触れて、五感が心地よく刺激されるミュージアム。 ○ 小中学校の授業での活用のほか、児童生徒が何かを学びたいと思ったときに利用できるような配慮を。 ○ 自然にも優しいミュージアムを。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びや体験を重視してほしい。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢に関係なく学べるコーナーの設置。 ○ 子どもたちには、ゲームで遊べる方法を。 ○ 子どもたちのために、青少年科学館やプラネタリウムなどの併設。 ○ 函館市の総合ミュージアム建設には、建物だけでなく通りにはオブジェや桜などを配置し、憩いの公園にし、大人でも一日いても楽しめる空間にしてほしい。 ○ コンセプトである「市民が何度でも足を運びたくなるミュージアムにすること。」には、図書館機能・美術館機能・また、水族館（ミニでもよい）の併設などが望まれる。近隣であれば、青森県十和田市の官庁街通りのように図書館・美術館などが近くにあり、通りのあちらこちらに、馬の銅像や関係するオブジェが飾られている。通りを往復するだけで感性が刺激されるような総合ミュージアムを建設していただきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公園や遊具等周りの環境整備がされると子ども達を連れていきやすい。 ○ 小学生が遊べるボールプールやトランポリンなどが出来る施設を併設してほしい。 ○ 函館出身の現役アーティストや芸能人（俳優・芸人・タレント）、作家、スポーツ選手などの展示、リリース情報、出演情報などの発信（地元出身者を後押し）地元出身の芸能人などは市民としては親近感があり、応援したくなる存在です。GLAYやYUKIなど知名度の高い方の展示はもちろん、ザ・ギースやオズワルドなどの出演情報などもあると市民はもちろん、全国のファンも訪れるスポットになるのではないかと思います。また、審査は必要かと思いますが、駆け出しの芸能人や作家、スポーツ選手を応援するような常設ブースもあると良いかと思います。（最新情報は常に更新）それらを見て楽しむだけではなく、子ども達にとっては地元から羽ばたいた先輩たちを間近に感じることで夢を膨らませるスポットになるような気がします。 ○ 文化的な大会やイベントを開催できるスペースを有すること。例えば、学童保育のクラブが複数参加していた文学館主催の啄木かるた大会（函館・盛岡交流事業）や有志で開催している百人一首の渡島大会（北海道大会の予選会）、その他書道の大会（近年の魅せる書道）などが開催できるスペースがあると市民が利用する機会が多くなると思います。現状このような大会は芸術ホールかと思いますが、芸術ホールは音楽や演劇などに特化し、ミュージアムでは文化的大会やイベントの開催ができることが望ましく思います。
<p>経済関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味を持ってもらう仕掛けが必要。学校の授業へ取り入れてもらうなど。 ○ 生活に密接するものがなければ、市民は何度も足を運ぶことはないので、ミュージアム単体にこだわらず、複合的な民間施設があるといい。 ○ 直接見る施設と観光客の出発点となるような情報提供ができる施設。 ○ ミュージアムの直接的な経済効果には限界があるので、ミュージアム以外で集客が可能な施設が必要。 ○ 同じものを長く見せるのではなく、同じ空間でも変化させることのできるミュージアム。（プロジェクションマッピング等） ○ 体験できるミュージアムに。
<p>観光関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光案内スペースの設置。
<p>まちづくり関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 店舗との複合化、観光情報センター的な機能、貸出型の展示場など、今までにない複合的な施設連携を期待する。
<p>資料等寄贈者</p>	

意見・要望等の分類

(各論) 2 建物に関すること

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	○ 周辺（函館駅前）には飲食店が多くなってきているので建築は目立つ現代的な外観を望む。
博物館関係	○ 重伝建地区に建設するのであれば、高さ制限やデザインの審査も伴うため、その点についての考慮が必要。
学校関係	○ ガラス壁面の多用、トップライト、中庭の設置等により、自然の照度や解放感に十分配慮したミュージアム。
文化関係	
福祉関係	○ 木材を使用し明るい施設に。 ○ 建物の周りに庭園の設置を。
経済関係	○ 建物は仕様変更が可能、イニシャルコストよりランニングコストを重視、デザイン性より機能性重視したものに。
観光関係	
まちづくり関係	
資料等寄贈者	○ 「総合ミュージアム」の規模は、十分な広さの常設展示室に加えて、複数のテーマ別展示室（北方民族資料、啄木と函館の文学者等）、企画展示室があればと思います。歴史ある都市函館であればこれくらいの規模は必要かと思います。

団体等区分	意見・要望等
パブリック コメント	
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広い駐車場の確保。 ○ 駐車スペースが十分にあること。 ○ 大型バス乗り入れ可能な駐車場の確保。 ○ 駐車場を気にしなくてすむ。 ○ 大型バスの駐車可能なミュージアム。 ○ 集客のために必要なのは駐車場，駐輪場の確保。 ○ 美術館周辺の駐車場を立体化し，五稜郭公園周辺の駐車場増を。
文化関係	
福祉関係	○ 駐車場は，車の後部から車椅子を出し入れできる長さの確保を。
経済関係	
観光関係	
まちづくり 関係	
資料等 寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者や高齢者に配慮したスロープや機器を設置して欲しい。 ○ (函館駅前) 標高の低い土地なので災害に備えた設備も万全であって欲しい。
博物館関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 収蔵庫の充実(広さ, 温湿度管理のしやすさ)
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 亀田交流プラザのような個別に仕切られたスペースも需要があると思う。 ○ SDGsの目標を意識した未来志向が必要。(太陽光発電, 自然光の活用, 再生水の活用, 3Rの備品など) ○ 季節限定のライトアップやイルミネーション, 3Dプロジェクションマッピング。 ○ 市民が楽しめるように, 講演会や研修会が行えるような広いスペースの確保や講演会, 研究会の企画・運営を行う。 ○ 若者が集まる場, 学ぶ場としてシエスタのようなフリースペースの確保。 ○ たたき台は, ユニバーサルデザインやインバウンドへの意識は感じられるが, 子どもへの配慮が少し足りないのでは。 ○ 子どもや高齢者, 障がいのある人にやさしいユニバーサルデザインに配慮してほしい。 ○ 休憩所や休憩室の整備など, 高齢者や障がい者に配慮したものを充実させる必要あり。 ○ 貴重な資料を厳重・適切に保管するための設備は必須。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示室のほかに, 市民が集えるスペースを。(屋内, 屋外) ○ 本館のあまり使われていない茶室を再利用できるように検討してもらいたい。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ トイレはユニバーサルシート付を最低1つ, できれば2つ設置してもらいたい。 ○ スロープ, エレベーターは施設の出入口の近くに設置を。 ○ トイレは案内表示をわかりやすく, 利用しやすいものに。 ○ ピアノを設置し, ミニコンサートなどを実施してはどうか。 ○ 講演会などを開ける場所を。 ○ ヒアリンググループ, 映像ミキサー等の使いやすい場所への設置と利用方法を説明できる職員配置を。(※アリーナ, 亀プラに設置のものは使いづらい。) ○ 情報にアクセスしやすいように設計してもらいたい。 ○ スロープは, 出入口付近など利用しやすい場所に設置を。 ○ 手すりは, 片側ではなく両側に設置してほしい。 ○ 手話利用者, 外国人などが利用しやすいようにQRコードの設置を。 ○ 掲示板の表示を見やすくし, 閉館時間や災害時のお知らせも表示を。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聴覚障がい者は、密室では周囲の状況がわからず不安なので、エレベーターには窓を設置してもらいたい。 ○ トイレは男性は青、女性は赤など、施設内の部屋を色分けしてほしい。 ○ 矢印や色分けによる案内表示のほか、ピクトグラムを見やすい位置に設置を。 ○ 館内で高齢者が休めるような休憩所やトイレが多くあるといい。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリー、ジェンダーフリー、妊婦・乳幼児なども安心して楽しめる施設にしてほしい。 ○ たたき台でも示されているとおり、バリアフリー、インバウンドを考慮した整備を。 ○ 個人的には、プラネタリウムがいいと思う。 ○ 観光客の来館はプロモーション次第だが、市民がリピートするようにするには、ゴールが無いもの、常に情報が新しい、食事ができる、体験ができるなどが将来への過度な負担にならない程度の設備で検討してはどうか。
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授乳室やおむつ替えコーナー等の設置。 ○ バリアフリー、SDGsの考慮。
まちづくり関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「函館には資料を保管できる施設がない。高田屋嘉兵衛の資料を函館には預けられない。」と言われたことが忘れられないです。貴重な資料を保管するバックヤードにも予算をしっかりとつけてほしいです。
資料等寄贈者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大切な資料を収蔵、展示する「総合ミュージアム」には、温湿度管理を徹底し、安全堅牢で、さらに自動消火システムを備えた展示室、同じ機能を有したたっぷりとした収蔵庫の外、展示ケースの使い易さ、照明への配慮も必要です。

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飲食ができる休憩スポットの併設。 ○ 食事が取れること。 ○ 飲食店があり食事がとれること，公園や遊具などの設置等，利用者のニーズに合わせる必要がある。 ○ 夜間の利用，ここでなければ購入できない特別なショップ，カフェやレストランなど，リピーターの拡大に配慮したミュージアム。 ○ コンビニ，ミスドのような店舗，文房具店などをテナントに入れてはどうか。 ○ ここでなければ購入できない特別なショップ，カフェやレストランなど，観光客のリピーターに配慮したミュージアム。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休憩できるカフェやレストラン，屋外に自然を満喫できるスペース，ピアノを設置し，市民によるコンサートが開催できるスペースの設置。 ○ テーマに沿ったグッズと食。 ○ ミュージアムショップの充実とカフェの併設。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 休憩所がたくさんあること。 ○ 施設内にベンチやカフェなど，休憩できる場所を設置してほしい。 ○ 「िकासニモカ」チャージ機，無料ロッカー，公衆電話，軽食喫茶，ベンチの設置。 ○ 学童保育所（放課後児童クラブ）での取り組みで行くことを考えると，休憩や食事の出来るスペースなどがあるといいと思います。 ○ レストラン，カフェテリア，宿泊施設の設置 街巡りや観光拠点，市民が何度も訪れるのであれば，飲食スペースや宿泊施設があると飛躍的に利用者が増えると思います。もちろん，ミュージアムとのタイアップ商品は必須かと思っています。例えば宿泊施設のうち土方歳三グッズに囲まれた土方ルームや石川啄木の短歌がちりばめられた啄木ルームとか，レストランやカフェテリアではその時々々にタイアップしたメニュー（季節ごとに変わる）や地元有名店もしくは地元食材を活用したメニューなどがあると良いかと思っています。
経済関係	

観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無料W I - F I 環境は必須。 ○ ミュージアムショップやレストラン, カフェなどが充実していることも重要。函館の歴史や文化のほか, 農産物, 海産物などをテーマとした飲食メニューやグッズの提供などの付加価値を高めることが誘客の材料となると考える。
まちづくり関係	
資料等寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史分野については、最新の研究成果を盛り込んだ内容が望ましい。その上で、さらに新たな知見があれば、改めることができるような整備を望む。 ○ 箱館高田屋嘉兵衛資料館（休館中）の資料は、将来的には総合ミュージアムに託したい。（遊女からの手紙、倉庫のカギ、復元ストーブ）
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 貴重な資料の保存管理の徹底をお願いしたい。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一級品の資料を揃える。 ○ 博物館を総合化していく中で、史資料の収集や現在あるものの把握などを並行して進めないと、総合ミュージアムになるまでに、こんなものも出てきたのかという齟齬が生じないかと心配している。 ○ 函館の博物館は非常に良いものを持っているので、歴史や考古の人間にはかなり有名ですが、一方で、資料点数が多岐にわたるので、これをお願いしますというときに、パツとなかなか出てこないということがあるので、今回のミュージアム構想の中でしっかり固める必要がある。 ○ 資料の収集は、来るもの拒まずという形でどんどん入れていると大変なので、良い物をジャッジして専門家の視点で研究し価値付けをしながら収集することが大事です。
福祉関係	
経済関係	
観光関係	
まちづくり関係	

○ 函館市中央図書館啄木文庫に関して、

(案1)

原本の展示を見て、同じ館内で資料閲覧、調査も出来ること事が本来の利用形態と考えることから、函館市文学館の総合ミュージアムへの統合を機会に、啄木自筆資料の展示については「函館市中央図書館」内に展示スペースを確保してもらうことを希望する。

中央図書館は空調設備も整っているの、直接外光が当たらない場所を選んでその場所を確保出来れば、現在、文学館が使用している展示ケースの再活用等により、低予算で実現出来ると考える。

しかし、この場合、養生をしながら展示（数年間隔を空けて展示）する必要がある自筆原本は必然的に展示資料数が少なくなる。

見学者に、啄木の事績をよく理解してもらうには、現在行っているようにカラーコピーやレプリカを活用したまとまった規模の展示も必要です。

つまり、原本は図書館で展示し、カラーコピー、レプリカ等を活用した展示は総合ミュージアムが行うという二本立てとする事を提案する。

(案2)

啄木自筆資料原本の保存と展示を図書館で行う事が困難ならば、「函館市中央図書館啄木文庫」の名称そのままに自筆資料の保存と展示を総合ミュージアムが行う事も止むを得ないと考え、これを「提案2」とします。

○ 「総合的な函館の歴史の展示」に必要な歴史的文書、卷子本、掛軸、屏風、地図、絵図、写真等を所蔵しているのは、圧倒的に中央図書館です。

函館図書館の郷土資料は、まとまった資料が一気に函館図書館に収まったものではなく、岡田健蔵という1個人が寝食を忘れ、寸暇を惜しんで郷土の歴史を学んだ結果です。

そもそも「市立函館図書館」の元は「私立函館図書館」でした。函館毎日新聞の愛読者の集まりである函館毎日新聞縁緑叢会が図書館の設立を提唱し、中でも図書館設立に熱心な提唱者で、図書館設立後はその運営に生涯掛けて取り組んだのが「岡田健蔵」でした。

昭和3年、耐火不燃質の図書館本館の建設を条件に、「私立函館図書館」の全てを市に寄贈し、「市立函館図書館」が誕生した。

岡田健蔵は、昭和19年に亡くなるまで、図書館運営に尽力しました。「岡田健蔵」の功績を正しく評価することは大切なことです。

図書館に歴史的資料があるのはそれなりの歴史があるからで、これを「図書館にも歴史的資料があったから博物館に持ってきて博物館の収蔵資料の一部として展示している」と一言で済ませる事は許される事ではありません。

現在は、資料のデジタル化が進み、調査研究には必ずしも原本の閲覧が必要な時代ではない事を考慮し、市民や研究者の調査研究に、代替可能な資料で補完出来るのであれば、「総合ミュージアム」にて図書館所蔵歴史資料を適切に保管し、展示資料として活用することはそれなりに意義あることと考えます。

しかし、それならば博物館資料の中に「馬場コレクション」「児玉コレクション」等寄贈者名を冠した資料群があるのだから、図書館から移管した資料群には「函館市中央図書館旧蔵資料」という名称を使用して図書館資料としての纏まりを維持し、従来の博物館資料とは明確に線引きをしてもらいたいと考える。それが図書館を愛し、図書館に一生を捧げた「岡田健蔵」の志に報いる事であると同時に、函館市民が自らの歴史と文化の成り立ちを誇りに思うよりどころとなり、その誇りは市民の精神的支えになるものと考えます。

もちろん、図書館資料の総合ミュージアムにおける展示について、展示その都度図書館からの借用とするならばこの限りではない。

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 函館の歴史・文化を一度で学べるような展示資料の充実、解説パネルやガイド案内のブラッシュアップが必要。 ○ 展示物以外にどんなものが収蔵してあるのかわかるようにして興味を持ちやすくする。 ○ 歴史の勉強・観光だけでなく、研究という目的も含んでほしい。 ○ 企画展一大規模なものだけでなく、小規模なものを回数多く行うという考えもあるのでは。 ○ 講演会を定期的実施する。講演者は市民から。演題はこだわりなく、ささいなものでも良いのでは。 ○ 収蔵品に関する講演を定期的実施—企画展と連動 小さな企画で可。
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示物を音声でも解説してくれるミュージアム。 ○ 触って理解することができるやさしいミュージアム。 ○ すでにデジタルアーカイブ化を実行している函館市中央図書館「デジタル資料館」と連携して、広範囲のものをデジタルアーカイブ化することで、函館に関する研究活動・教育活動が外に開かれたものへと発展していくのではないかと考えました。 ○ 函館には歴史的な魅力はもちろんのこと、文化的な面でも多くの魅力を有していると感じています。函館の歴史的背景や文化に加え、大衆文化を含める文化的な背景・作品（文学、美術、映画、音楽など）を結び付けるような展示が実現すれば、新たな角度で函館の歴史を振り返ることができ、学生をはじめとして多くの世代の関心を集めることができるのではないかと。 ○ 函館には「最先端」「デジタル」「華やか」といったイメージよりも、「レトロ」「趣のある」「落ち着いた」印象のほうが合っているのではないかと思うので、近代的というよりはあえて昔ながらのものや取り組みを生かして魅力を引き出していく路線の方が合っているのではないかと感じます。余談ですが函館の「七夕まつり」は全国的にも珍しい慣習だと思うので、ぜひ紹介してもらいたい。「いか踊り」も紹介出来たら面白いと思います。市内で発行されているフリーペーパー”peeps”では函館の文化的な歴史、風俗習慣を特集していることが多く、参考になるのではないかと思いました。 ○ 博物館も収蔵品の展示方法を利用者が参加できるさらなる工夫をすると、何度も足を運んでリピーターも増えると思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館建設にあたり、東京国立博物館などはアメリカのスミソニアン博物館を模して常設展示をリニューアルしたと聞きます。予算の都合もあるかとは思いますが、現在、人を集めている博物館をたくさん参考にして、収蔵資料を最大限に生かせる展示にしてもらえると文化都市函館のますますの発展につながるのではないかと。 ○ 企画展の充実。 ○ 函館には全国に誇ることができる歴史と文化が点在している。単に施設を統合するのではなく、そこで体感できたことが市内の史跡や文化施設、民間施設につながる、来館者が実際に現地に行きたくするような展示内容にする。 ○ 「アイヌ」と「箱館戦争」の間に「開国」を入れてはどうか。 ○ そもそも総合ミュージアムの原点だと思うが、歴史遺産や函館独自の文化が点在している中で、展示内容の厳選やつながりを考えなければならないと思う。 ○ これまで各施設が差別化を図って展示してきたものをブース的に紹介したり、VRや自動音声化など、見せ方の工夫が必要。 ○ 総合的に学べる内容を明確にすべき。（函館の歴史、五稜郭の歴史等） ○ 歴史に関しては、その当時の人の営みがわかるもの。 ○ 他の都市との比較ができるもの。 ○ 周期での展示替え、VRの活用。 ○ 小中学生や高齢者など、年代を意識した資料展示。 ○ 市民は博物館法を知らないので、該当部分などの表記も。 ○ 世界や日本の状況なども合わせると、内容がわかりやすくなる。 ○ 芸術や自然科学、動物学、植物学なども。 ○ 函館をメインに、簡単に世界や日本の歴史も合わせることで、さらに効果が期待できる。 ○ 文化の中に函館の歴史も込められている「映画文化」も取り入れてほしい。 ○ 敷居の低い、親しみやすいイベントの企画がほしい。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 季節や年度によって変化を持たせ、リピートしたくなる工夫が必要。動きがある展示、世代を超えた展示などが重要。 ○ 宣伝力が必要なほか、展示とイベントを上手に組み合わせて、見る側の関心を高める工夫を。 ○ 学芸員による説明や体験コーナーの設置。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がい者が音声や手で触れて鑑賞できる設備を設置してもらいたい。 ○ 小学校の振替休日が月曜日に多いので、月曜日も開館してほしい。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚障がい者への音声案内の充実。 ○ 分野ごとの展示だけでなく、歴史、政治、文化など各ジャンルを平行に俯瞰的に学べる工夫があったらいい。 ○ 展示替えや企画展を積極的に行い、いつ行っても新しい発見があるようにするといい。 ○ 展示を見た後に、実際の場所へ行ってみたいとなるような発展的な展示があるといい。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示物やパネルだけでなく、VR・AR・MRを活用した表現方法を検討してほしい。
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門的な事柄をわかりやすく伝えられるようなツールの活用。 ○ 函館と道南の自然の多様性も紹介してもらいたい。 ○ 陸けい島としての函館山の自然や、駒ヶ岳や恵山等の火山災害と火山の恵みの温泉等も紹介。 ○ 内容第一が当然だが、市民にとっては、足を運びやすい場所が重要な要素のひとつ。それを前提に、収蔵資料や道南他施設の資料貸借によるテーマ展や企画展を季節ごとの開催と関連する普及事業、児童生徒対象事業などにより市民のリピーターを増やすことができれば。 ○ 函館の産業、農・漁業、産物の紹介コーナーの設置。 ○ 展示の定期的なリニューアル。 ○ 数年おきに展示内容の刷新を。 ○ あまり、ハイテク（デジタル）に頼らないほうがいい。（修繕費の負担が大、放置されるのがみっともない） ○ AR・VRに頼りすぎないほうがいい。 ○ 定期的または季節ごとの普及事業、講座の実施。 ○ 館内イベントの充実。 ○ 季節に応じたイベントの開催。 ○ 市民、児童生徒、学生、研究者に対応できるレファレンス機能。 ○ 博物館的な視点に基づき、まち歩きガイドの独自養成、市民や観光客の希望に応じたプログラムの開発。
まちづくり関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然科学の展示として函館山の動植物、渡り蝶、渡り鳥の生態を入れてほしい。 ○ 生活の歴史に、大門、ドック、北洋漁業、公園等を。 ○ AR・VR賛成（開港時の町並みの様子再現を） ○ あたかもその場にいるような仮想空間を体験できる施設。例えば、船の往来と町の活気を体現できる等の体験。
資料等寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画展やイベントを通じて、市民を飽きさせない館の運営を望む。 ○ 学芸員が少なすぎる。 ○ 市民ボランティアをスキルに合わせて多種類募集し、ある程度責任を持たせてはどうか。責任に合わせて報酬を与える。 ○ プロジェクト毎に臨時職員やアルバイト、有償ボランティアを雇って企画を行う。
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 貴重な資料を厳重・適切に保管するための人材は必須。 ○ 学芸員の増員による雇用の拡大と、学芸員の研修による入場者への説明業務の充実。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登録博物館必置の学芸員や司書の配置などの課題も考えてもらいたい。 ○ 運営は指定管理者という考え方が以前あったが、それも全国的にあまりうまくいかなかった。それでは独立法人はどうか、あるいは建物も内部の運営も全部民間に任せられないかなど、色々模索しては頓挫している状況です。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設を障がい者雇用の場にしてほしい。 ○ 案内等への手話通訳者の配置。(ろうあ者の通訳者としての雇用を)
経済関係	
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合ミュージアムでは、外国語環境(スタッフ配置、パンフレット、AR・VR)も準備段階から必要。 ○ 旅先で出会った人の印象が、街の好感度アップにつながりリピーターの増につながることから、総合ミュージアムで働く人材の育成も大切なこと。 ○ 地元のガイド団体のほか、ボランティアスタッフを活用してもいいのでは。声をかければ、ボランティアでもやりたいという人はいる。 ○ 大学生等、若い世代にも声かけを。若い年代のスタッフが入ることで活気が出てくる。ボランティアを含め、人材育成は必要。 ○ 各分野の学芸職員や教育普及を担当する専門職員の配置。 ○ 館内ガイドの配置、AI技術の導入。 ○ 観光コンシェルジュ的な人材配置。

<p>まちづくり 関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の保存や展示も重要だが、それらを生かすのは人材である。北方民族資料館は、指定管理者による運営であり、専門性を持った人材を育成できる体制にはないが、アイヌ文化は民族政策や人権に対する配慮など、高度な専門知識が求められることから、博物館が機能するためには、人員、予算の確保が必要。 ○ 専門性がますます高まっている現状に対応し、学芸員は修士以上の学位を有する人材を採用してほしいです。また、専門領域を横断する「地域学」分野の学芸員の採用も希望します。 ○ 博物館は市民と学芸員がともに学び育つような施設にしていきたい。また、そのための学習会の企画も必要と考える。函館の図書館は素晴らしいものであり、そこの連携も必要。各施設（博物館類似施設）をサテライトと位置づけ、連携も考えていきたい。
<p>資料等 寄贈者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 十分な専門知識を持った複数の学芸員、司書が常駐し、資料の取扱い展示、調査研究をすることは言うまでもありません。

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	○ ミュージアムグッズの充実を望む。(図録のバックナンバー, 関連本等)
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他施設の場所が確認できるマップや交通機関などの移動方法を検索できるマップがあるといい。 ○ ポイントカードの導入。 ○ 歴史や文化のメインを提示し, 宣伝していく必要がある。 ○ 企業やNPO法人等と共同のイベント企画, 修学旅行の積極的誘致アピールなど。 ○ 函館の歴史・文化→海産物→イカ→飲食店→お土産等, 関連していく外観も大切。コマースシャルと特典などがあれば。 ○ 飲食店, 土産店等と連携したお得なクーポン等の発行などの工夫がさらに必要。 ○ 経済波及効果のために, 利用者には飲食店やお土産店で利用できるクーポンを発行。 ○ 観光客のために, 市外の観光施設や道南の観光施設との共通利用券を提供。
文化関係	○ 修学旅行生が必ず訪れるミュージアムとしての魅力の構築。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマソングの作成など, 機運を高める活動を行ってはどうか。 ○ 所在地を含め, 施設の認知度が低いので, 広報に力を入れてほしい。 ○ 博物館は, 一度行くとイベントがない限り何度も行かないので, 図書館を入れたり, 他の市町村にないような, 特に冬の函館に対応したものを取り入れてほしい。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5カ所を回りスタンプを集めることで, 記念品がもらえるようにすれば, 周回する機会になる。 ○ 何度でも興味が湧くミュージアムにしなければ市民の再利用は望めない。函館の歴史・文化を深く何度も知りたいとは考えない。(基本1回で十分) ○ 5カ所を回りスタンプを集めることで, 記念品がもらえるようにすれば, 周回する機会になる。 ○ まずは, 知名度が必要。
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ パスポートや市民割りなどの割引制度。 ○ パンフレット(まち歩き)との連動。
まちづくり関係	

資料等 寄贈者	
------------	--

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	<p>○ 設置場所とその理由 函館駅前（松風町大門付近）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化施設が無い。 ・ 交通体系の利便性が良い。（空港との接続・新幹線との接続） ・ 人口の過疎地になっている。（ドーナツ現象が続いている） ・ 観光地の拡大に繋げたい土地である。 ・ 種々の遺跡や名所・旧跡・文化財が市の周辺部に散在しているを紹介する場。 ・ 市民が函館市の歴史・文化・産業を詳しく学習し、他地域の人々に紹介できる場。 ・ 小中学校の児童・生徒の学びの場として集まり易い場所である。
博物館関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新館は、函病跡地に3階建ての建物とすると聞いていたが、その考えは踏襲されているのか。 ○ 交通アクセスを十分考慮すべき。 ○ 博物館は、観光資源としての経済効果も大きいことから、場所が大きな要点となる。
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場所は、①ポーニ跡施設の計画を変更し、博物館を併設、②五稜郭戦争、幕末の歴史関係は現北洋資料館に集約。 ○ 函館駅前の賑わい創出を考えるなら、ミュージアムは駅前に。 ○ 立地場所が非常に重要で、外国船で入港する観光客の誘客ならびに札幌まで延伸する新幹線へのアクセスを考えると、函館駅から徒歩で行ける距離圏でなければ持続可能な運営にはつながらないと考える。函館駅前から金森倉庫までの間で検討されることを望む。 ○ 街中の有料駐車場ではなく、市内でも車の移動がメインの事を考えると無料で大型バスもとめることのできる駐車場を確保できる十分な広さをもった場所に建設すべきだと思う。市民の利用を考えた際も車をとめられる所はあるかという事がとても重要になってくると思う。ちょっと寄ってみようかと気軽に立ち寄れるようにすると、利用者も増えるのではないか。 ○ 高齢者や障がい者が利用しやすい交通環境。 ○ 公共交通機関が利用しやすいこと。 ○ 西部地区・五稜郭など観光の環境の整っている場所で、例えば道立函館美術館との連携など実施できれば面白い。 ○ 交通機関（市電、シャトルバス、貸自転車、人力車等）のさらなる充実が必要。 ○ 交通アクセスが良好であること。 ○ 他の観光施設までの移動が便利であること。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交通網の接続。 ○ シャトルバス，市電，人力車等の交通機関。 ○ 市の中心部またはアクセスのよい場所に位置し，誰もがいつでも立ち寄れることができ，様々な出会いや体験が可能となる多目的公園のようなミュージアム。 ○ 観光客も立ち寄りやすいアクセスのよい場所に位置し，様々な出会いや体験が可能となる多目的公園のようなミュージアム。 ○ 市内どこからでもアクセス可能な場所であれば，子どもから高齢者まで幅広く利用できる施設になると思う。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建設地は，平成4年の社会教育施設整備構想から考えても，旧函病跡地という意見が大きくなっていくだろう。 ○ 坂道がある西部地区に建てるなら，ケーブルカーやエスカレーターがあればいい。 ○ 交通アクセスをしっかりと考えてほしい。 ○ 駐車場も大事だが，シャトルバス，電車などの足の確保が必要。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 周辺道路の歩車道の段差の解消を。 ○ グリーンスローモビリティを活用できないか。 ○ 場所は西部地区にしてほしい。 ○ 障がい者，高齢者のために，電停から近い場所に。 ○ 公共交通機関の利便性，特に冬場のアクセスの向上を。 ○ 障がい者も安心して利用できるよう，交通アクセスがよくあまり歩かなくてもいい場所。 ○ ポー二閉店後，函館駅前再開発の進み具合が遅く，飲み屋，パチンコ店などが多く，駅前に魅力ときれいさが無い。これでは，観光客もお金を落とす気持ちにはならない。交通アクセスも考え，ポー二の跡地などに商業施設もあるミュージアムを。 ○ バス停やタクシー乗り場，駐車場が近くにあるといいなと思います。
経済関係	
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ アクセスの良し悪しが来館者の入込数に大きく影響することは間違いない。 ○ 高齢化が進む函館市において，市民に足を運んでもらうためには，シャトルバス等の運行が必要であり，函館バス等，民間企業との連携も重要になる。 ○ 観光客の立ち寄りやすい場所への建設。
まちづくり関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建設場所は，西部地区のランドマーク的存在としても元町公園がいいのではないかと考える。
資料等寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリック コメント	
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予算のかかる大事業なので、クラウドファンディングやふるさと納税の用途指定など、予算確保に工夫が必要。 ○ 今の子どもたちが大人になったときに同じような整備が必要ないように。 ○ 駐車場や施設利用料を管理費としての財源活用。 ○ 施設ごと?のクラウドファンディングを活用し、将来世代に負担を与えない。 ○ ふるさと納税の返礼品への、ミュージアム関連限定品等の設定。 ○ 道外の函館市出身者(函館会など)に幅広く寄附を募る。 ○ 建物の命名権、プロジェクションマッピングでの広告、関係者ユニフォームへの広告掲載などによる広告収入。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館資料や図書館の簿冊や古写真などの貸出しでお金を徴収できるような枠組みを作ってもらいたい。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過度に大きなものをつくっても維持管理に金がかかる。大きな施設でも、時代に合わせ、変化させられる建物がいい。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集客力の高い施設にすることで、収益を安定させる必要がある。 ○ 運営費や修繕費、更新費用等の明確な予算取りと緻密な計画が必要であり、単年度予算だけでなく、中長期予算や解体までの期間を見越して予算を組むべき。
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過度な負担を残さないのは当然のこと。 ○ 過大な費用はかけない。(費用対効果を見極める)
まちづくり 関係	
資料等 寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古くて見栄えはしないが歴史的遺産，残せないか。倉庫。 ○ 建物はそのまま残して，会議や集会場所として。 ○ 旧館は機能縮小の上で残し，まち歩きの拠点とする。建物自体に価値があり，スタンプラリーや観光案内所などでの活用を望む。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵画，彫刻などの収蔵と展示。 ○ 統合後の施設の活用方法については，博物館の設計構想と並行して，議論を進める必要がある。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な考え方には賛成だが，総合ミュージアムも既存施設の活用にも十分な駐車場確保が前提となる。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ レストランや喫茶店など，函館公園の憩いの場に。 ○ 統合後の施設の活用については，プロポーザルを受けてはどうか。 ○ 移行後の各施設の再整備は，一部取り壊しも含めた再利用（キッチンカーが集まれる公園等）
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提示案でOK ○ 無料W I - F I 環境は必須。 ○ 収蔵庫もいいが，市民が立ち入れない施設ではなく，函館公園や函館の博物館史が紹介できるような展示コーナーの設置を希望。 ○ 移設されている茶室の活用。 ○ 歴史ある建物を壊すのではなく，活用できないか官民一体で考えてほしい。
まちづくり関係	
資料等寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光型店舗への貸出。商業施設。 ○ 徒歩での観光コースとして定着しているので、建物の外観の補修を行い保存に努めては。 ○ 函館市の再利用コンセプトを作成、起業家や事業者を誘致し、ホテル、レストラン、カフェ、工房などを募集してはどうか。 ○ 歴史的建造物として保存が望ましい。 ○ 旧館は機能縮小の上で残し、まち歩きの拠点とする。建物自体に価値があり、スタンプラリーや観光案内所などでの活用を望む。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ いい形になって運営ができていると思う。 ○ 周辺にも波及効果があるのではないか。 ○ こういうわかりやすい施設が必要。 ○ 統合後の施設の活用方法については、博物館の設計構想と並行して、議論を進める必要がある。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な考え方には賛成だが、総合ミュージアムも既存施設の活用にも十分な駐車場確保が前提となる。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワーキングスペース、アンテナショップ、チャレンジショップ、ミニコンサート、個展、工房など、起業・交流の場になる施設に。 ○ 統合後の施設の活用については、プロポーザルを受けてはどうか。 ○ 移行後の各施設の再整備は、一部取り壊しも含めた再利用（キッチンカーが集まれる公園等）
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 渡邊熊四郎ゆかりの建物で、展示物を一体で残すことが理想。廃止するのであれば、観光案内所、カフェ、休憩スポット、修学旅行生の待ち合わせスポット。外国人も認識できるピクトグラムの設置。 ○ 無料W I - F I 環境は必須。 ○ 現在のように建物自体を見せることと併せて、函館の商業の歴史、埋め立て地や外国人居留地の歴史などに特化し紹介する施設。 ○ 明治期の商家の建物なので、案内所を兼ねた函館の商品を置く物産館的なものへの活用。

	<p>○ 現在のままでもいいと思うが、移行するのであれば土産店や居酒屋、カフェなど、雰囲気を生かした活用を。</p> <p>○ 歴史ある建物を壊すのではなく、活用できないか官民一体で考えてほしい。</p>
まちづくり 関係	
資料等 寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	○ 北洋資料館の跡地については、音楽や映画、芸能の博物館や貸しスタジオ、練習用ホールを設置して、芸術ホールとの相乗効果を生み出すべきと考える。
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小ホールの設置。(イメージはかなでーの小ホール) ○ ギャラリーや公民館のようなミニコンサートのできる施設。 ○ 宿泊研修で子どもたちと見学したが、総合ミュージアムにうまく組み込んでほしい。 ○ 貴重な資料等が全て総合ミュージアムに移設されるのであれば、駐車場の増設には。 ○ 芸術に関するまたは多目的の施設として活用。 ○ 芸術ホールに隣接する施設に相応しい活用。 ○ 芸術ホールの活用の活性化にむすびついてほしい。 ○ リハーサル室、控室、土産店。 ○ 旧館は機能縮小の上で残し、まち歩きの拠点とする。建物自体に価値があり、スタンプラリーや観光案内所などでの活用を望む。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 芸術ホールの催し物の控室、小規模ギャラリー、個人利用が可能な分割可能なスペースに。 ○ 海が見える場所への移転を考えるべき。 ○ 芸術ホールと一体的な施設は双方にとって不利。 ○ 芸術ホールの要素を取り入れるなど、焦点化し利用しやすくした方がよい。 ○ 統合後の施設の活用方法については、博物館の設計構想と並行して、議論を進める必要がある。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な考え方には賛成だが、総合ミュージアムも既存施設の活用にも十分な駐車場確保が前提となる。 ○ 芸術ホールのホワイエが狭いので一体的にしてほしい。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小ホール的に小さめのライブやコンサート、個展などが開催できるスペースに。 ○ 統合後の施設の活用については、プロポーザルを受けてはどうか。 ○ 移行後の各施設の再整備は、一部取り壊しも含めた再利用(キッチンカーが集まれる公園等)
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ ギャラリー的な場所、茶道華道発表の場、会議スペース、カフェ・レストラン ○ 無料W I - F I 環境は必須。 ○ 西部地区や港近くの場所がよいと思うので、北方や文学館の転用はどうか? ○ 貸しギャラリーや文化団体の歴史や活動を紹介するコーナーの設置。

まちづくり 関係	
資料等 寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立体駐車場。商業施設。 ○ 徒歩での観光コースとして定着しているので、建物の外観の補修を行い保存に努めては。 ○ 歴史的建造物として保存が望ましい。 ○ 旧館は機能縮小の上で残し、まち歩きの拠点とする。建物自体に価値があり、スタンプラリーや観光案内所などでの活用を望む。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北方民族資料館として、このままの展示を行う。 ○ 1階のロビーを開放して、人の出入りをしやすくする。 ○ 統合後の施設の活用方法については、博物館の設計構想と並行して、議論を進める必要がある。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な考え方には賛成だが、総合ミュージアムも既存施設の活用にも十分な駐車場確保が前提となる。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワーキングスペース、アンテナショップ、チャレンジショップ、ミニコンサート、個展、工房など、起業・交流の場になる施設に。 ○ 統合後の施設の活用については、プロポーザルを受けてはどうか。 ○ 移行後の各施設の再整備は、一部取り壊しも含めた再利用（キッチンカーが集まれる公園等）
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 銀行の歴史を学べ、銀行に関連した土産物の販売、カフェ・レストランを持つ「銀行博物館」的な施設。 ○ ジャズコンサートや小規模な芸術関係の発表会スペース、個人事業者向けの貸しスペース ○ 無料W I - F I 環境は必須。 ○ 立地が観光客が散策する函館観光の重要な地域なので、郷土資料館同様、特化した展示のほか、カフェやショップなど、西部地区の観光拠点施設として利用。 ○ 歴史ある建物を壊すのではなく、活用できないか官民一体で考えてほしい。
まちづくり関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北方民族資料館については、ロケーション的に非常にいいので、外観を生かしながら収益事業ができるのであれば、手を挙げる事業者はいると思う。ただしその場合、博物館機能を担保するのは難しいと考える。

資料等 寄贈者	
------------	--

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 亀田交流プラザのような多目的施設。商業施設。 ○ 徒歩での観光コースとして定着しているので、建物の外観の補修を行い保存に努めては。 ○ 歴史的建造物として保存が望ましい。 ○ 旧館は機能縮小の上で残し、まち歩きの拠点とする。建物自体に価値があり、スタンプラリーや観光案内所などでの活用を望む。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統合後の施設の活用方法については、博物館の設計構想と並行して、議論を進める必要がある。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な考え方には賛成だが、総合ミュージアムも既存施設の活用にも十分な駐車場確保が前提となる。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワーキングスペース、アンテナショップ、チャレンジショップ、ミニコンサート、個展、工房など、起業・交流の場になる施設に。 ○ 統合後の施設の活用については、プロポーザルを受けてはどうか。 ○ 移行後の各施設の再整備は、一部取り壊しも含めた再利用（キッチンカーが集まれる公園等）
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 銀行の歴史を学べ、銀行に関連した土産物の販売、カフェ・レストランを持つ「銀行博物館」的な施設。 ○ 立地が観光客が散策する函館観光の重要な地域なので、郷土資料館同様、特化した展示のほか、カフェやショップなど、西部地区の観光拠点施設として利用。 ○ ジャズコンサートや小規模な芸術関係の発表会スペース、個人事業者向けの貸しスペース ○ 無料W I - F I 環境は必須。 ○ 歴史ある建物を壊すのではなく、活用できないか官民一体で考えてほしい。
まちづくり関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文学館については、ロケーション的に非常にいいので、外観を生かしながら収益事業ができるのであれば、手を挙げる事業者はいると思う。ただしその場合、博物館機能を担保するのは難しいと考える。
資料等寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	
学校関係	<p>○ 配慮しなければならない事項①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文頭に、「全世代の人々が」を入れてはどうか。 ・ 「役割」というくくりで考えると、 <ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史と文化を未来へつなぐ…①, ⑤ ■ 文化芸術的な視点からの人材育成と学びの機会の提供…② ■ 文化芸術を活用したまちづくり…③, ④ <p>が建設的な柱立てかと感じた。</p> <p>○ 配慮しなければならない事項②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミュージアムの前に「体験型」, 「リニューアル型」をつけてはどうか。 ・ 市民が誇りに思い何度でも, としてはどうか。 ・ 「観光資源」「経済波及効果」「過度な負担」という視点は, 役割の下部に表現されるべきものと感じた。 ・ 文化芸術に親しみ, 学び, 体験しながら楽しむことで, 知的好奇心や探求心を刺激する。 <p>○ 配慮しなければならない事項③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの観光客を誘客でき, <u>リピーターを増やす工夫がなされた</u>としてはどうか。 <p>○ コンセプト④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「総合学習」を「総合的な学習の時間や見学学習, 集団宿泊活動」としてはどうか。 <p>○ コンセプト⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この点が観光客誘致の重点課題。総合ミュージアムの充実とともに, 手をつけられずに残っている価値の高いものの整備を図ってほしい。
文化関係	
福祉関係	
経済関係	

観光関係	
まちづくり 関係	
資料等 寄贈者	

団体等区分	意見・要望等
パブリックコメント	
博物館関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名称は市民の声を聞いて決めてもらいたい。 ○ 歴史的な観光資源を、まだまだ活かしてきていない。 ○ 昭和53年から函館の歴史的風土を守る会で活動しているが、たたき台の説明にあったように、市民や関係団体から意見を聴取するということに、当会も当然入っていると思うが、今回一緒に考えていければと思う。
学校関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 函館の貴重な「もの」や「できごと」が、次々と埋もれてしまい、忘却されつつある。この函館の街が衰退し、元気を失っていくとしたら、こんな悲しいことはない。人口が減っていく中で、大都市のような栄え方を目指してもうまくいかないと思う。規模は小さくても「唯一無二」に磨きをかけ、ほかにはない魅力を発散する街になってほしいと思う。 ○ 観光客よりも、まず市民を第一に考えてもらいたい。 ○ 観光案内、芸能人や企業とのタイアップ。 ○ 実際の来場者に限るのか、在宅でも訪問できる工夫をするのか、あるいは訪問者だけが得られる貴重さを大切にするか。 ○ 企業との連携。 ○ 世界的・学術的に何らかの拠点となりえるか、つながりを持たせることが必要。(函館の歴史→町村合併→南茅部→縄文遺跡等) ○ 市民や観光客のニーズに合わせ拡大していった方がいい。 ○ 環境整備の充実が望まれる。 ○ 小中学生や校外学習や総合的な学習で活用できるように利用料の減免を。 ○ インスタ映えするミュージアム。 ○ ”何度でも足を運びたくなる”ではなく”何度でも足を運べる”のほうが、理想ではなく現実的な配慮ができると思う。
文化関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ ランニングコストも大きな課題ではあるが、そこに雇用が生まれれば違ってくるのではないか。若者の雇用の場にしてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの自治体でも、自治体で持っている博物館・ミュージアムは結構運営が苦しいと思う。というのは、②「市民が何度でも足を運びたくなるミュージアムにすること」というのがあるが、どちらかというと、市民は地域のものにあまり興味を持とうとしないと思う。色々な市民からのリクエストは有名なものを見たいというものが強く、それは非常にお金がかかるので、現実的には不可能なことがほとんどです。そういう意味での市民に対する教育普及をどのように総合ミュージアムの設計段階に取り込んでいくかということが課題だと感じる。 ○ それぞれ自分の利害に立った視点では、ミュージアムとして未来を展望するというよりはすごく近視眼的な施設になってしまうので、どういったビジョンを持ってやっていくのかということが大事です。 ○ 「博学連携」ということが言われているが、すごくうまくいっているところといていないところがあり、また、すごくうまくいっているところはたまたま博物館の設置場所が中学校や小学校がかなり簡単に来ることができるような、ちょっとバスを出すと来ることができるようなところで、たまたまの条件に支えられていたりします。そういう視点も入れてもらえればありがたい。 ○ （仮称）総合ミュージアムが実現するまでに、博物館や中央図書館などが所蔵する貴重な資料を函館市の指定文化財として指定するための手続きを併せて進めるべきです。
福祉関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の歴史を小さい時から学ぶことは大切である。 ○ 観光客も大事だが、青少年をはじめ市民が楽しめる施設がない。 ○ 横浜のみなとみらいのように、水上バスなど、湾内を回れるのがいいのでは。
経済関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市の公共施設として建設する場合、経済波及効果まで求めることは無理なので、このミュージアムに利益を求めるコンセプトは必要ない。 ○ すべての年齢層が楽しめる施設にするのは難しいので、函館の児童・生徒なら必ず行ったことがあるようにするなど、メインの年齢層を絞るべき。 ○ 楽しむ・経済波及効果・集客目的ともなるとプロの目線や仕掛けが当然必要。 ○ 既存のものではなく、日本初などの強いインパクトがなければ費用をかけてまで来ない。 ○ まずは、いつ完成を目指しているのかを明確にすべき。
観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国からの観光客を中心に活動しているが、外国語表記はまだまだ少なくサイズも小さいという指摘を受けている。 ○ オーストラリアやニュージーランドからの観光客は北方民族資料館に興味を持つ人が多い。 ○ 基本的な考え方の段階で「経済波及効果」をテーマとするのは違和感あり。まずは展示内容や事業運営の方向性が重要。
まちづくり関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内のパブリックアートの紹介。 ○ 函館山に要塞があることを知る人は決して多くはないです。「函館要塞」の歴史的位置づけと、自然豊かな函館山の活用は重要です。函館山一帯を「天井のない野外博物館」として活用できると考えます。

	<p>○ テーマ館（サテライト）のひとつに加えたいのが「町並み資料館」です。博物館の中だけに収めるのではなく、町並み散策の途中にテーマ館のひとつとして展開したいです。</p> <p>○ 現在の博物館本館周辺には「旧函館博物館」や「旧市立函館図書館書庫」など文化財や文化財に匹敵する建築物が存在しています。これらの環境整備も併せて計画してほしいです。</p> <p>○ 今まで即時的に政治的判断で、本市の博物的資料のコレクションを分断して各所に展示した経緯があるが、もう一度見直す時期に来ていると考える。自治体合併による職員の配置や学芸員の定期的な確保なども含め、行政側で常に適切な判断ができていたとは言い難く、今後は改善が求められる。</p> <p>○ 函館も古い建物の取り壊しを進めるべきではない。旧図書館（の一部）は、辰野金吾の設計で貴重な建物なので、残すことも必要ではないか。</p> <p>○ 函館は大正10年では、東京以北最大の都市である。次のような発展理由がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史力（開港都市，箱館戦争） ・ 経済力（どっく，青函連絡船，北洋漁業） ・ 文化力（西部地区にある宗教施設など） <p>経済力については後に衰退するが、歴史力と文化力が融合し観光力として現在に至る。函館は文化的にもポテンシャルが高い。ゆえに有機的に要素を組み合わせさせて連携させて磨きをかければ良い。</p> <p>○ 今の子ども達は、北の防御という五稜郭の正しい歴史的な価値を認識していないなど、市の貴重な財産の価値と市民の意識が一致していないという現実もある。</p> <p>○ 今後、本館以外の建物の取り扱いについて議論がおよぶと思うが、旧図書館のような扱い（過去に活用方法の検討会を設置したが、耐震の問題でとん挫しそのままになっている）にはなってほしくない。</p>
資料等 寄贈者	